

## 平成26年度教育研究業績書

氏名 角谷 常子

最終学歴	京都大学大学院文学研究科東洋史専攻	
取得学位	博士(文学)	
所属学会	日本秦漢史学会・東洋史研究会・史学会・東方学会・木簡学会・中国出土資料学会	
専門分野	中国古代史	
研究課題	中国古代の社会と国家	
授業科目	学部担当科目	東洋史演習 東洋史講読 史料実習 東洋史概論 史学研究法
	大学院修士課程 担当科目 (博士前期課程含)	・国際文化財史料学演習 ・東洋史学特殊講義 ・ ・ ・
	大学院博士後期課程 担当科目	・ ・ ・ ・
	通信教育部担当科目	・東洋史概論 ・ ・ ・
【研究上の特記事項】	<p>*「文字文化からみた東アジア社会の比較研究」(科学研究費補助金(基盤研究(A))平成26年度～平成30年)研究代表者</p> <p>*「秦簡『数』など秦漢期の古算書及び『九章算術』の数学史における位置づけの検討」(平成25年度～平成28年度科学研究費補助金(基盤研究(C)) 研究代表者 田村誠)分担研究者</p> <p>*「新出簡牘資料による漢魏交替期の地域社会と地方行政システムに関する総合的研究」基盤研究(A)平成26年度～平成30年 研究代表者 關尾史郎 研究分担者)</p> <p>*「古代中世東アジアの関所と交通政策」(基盤研究(A)平成26年度～平成30年度 研究代表者 鷹取祐司 研究協力者</p> <p>*「中国古代簡牘の横断領域的研究」(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題 研究代表者 陶安あんど 共同研究員)</p> <p>*2015年3月11日～15日栃木県、群馬県において日本古代の石刻資料及び古代遺跡の調査を行った。</p>	
【教育上の特記事項】	<p>*銅銭や木簡など、実物資料による授業を実践。</p> <p>*中国と日本及びヨーロッパ諸国を比較した視点からの授業の実践。</p>	
【社会的活動】	<p>*日本秦漢史学会副会長、『古代文化』編集委員、木簡学会委員、東方学会・中国出土資料学会会員。</p> <p>*日本セカンドライフ協会での講演(年4回)</p>	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	史学科主任・総合研究所運営委員・セクハラ委員	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
①『漢簡語彙中国木簡辞典』	共著	2015年3月	京都大学人文科学研究所簡牘研究班・岩波書店	居延漢簡にみえる語彙の辞典
②『漢簡語彙考証』	共著	2015年3月	富谷至編・岩波書店	辞書を編纂する上で問題となった語彙についての考証
③				
④				
⑤				
(学術論文)				
①				
②				
③				
④				
⑤				
(学会発表)				
①中国古代の「書記官」	単	2,014年11月3日	東洋史研究会大会	中国古代において、一般に書記官と呼ばれる人たちの職務内容について検討した。
②				
③				
④				
⑤				
(その他)				
①中国古代の女性の戦略	単	2014年5月	日本セカンドライフ協会	儒教倫理が形成される過程における女性の位置づけについて検討した。
②日中古代の女性官僚	単	2014年9月	日本セカンドライフ協会	女性官僚のあり方について、日本と中国を比較検討した。
③文字の中国音の日本	単	2014年10月	日本セカンドライフ協会	音声による伝達を重視した日本と文字化を重視する中国の違いについて検討した。
④中国文化受容の真のすがた	単	2015年2月	日本セカンドライフ協会	韓国・日本における中国文化受容の実態を比較検討した。
⑤				